

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	学校法人 三幸学園 東京みらい児童発達支援センター		
○保護者評価実施期間	2026年1月21日		～ 2026年1月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	113 (回答者数)	74
○従業者評価実施期間	2026年1月28日		～ 2026年2月4日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	21 (回答者数)	21
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月18日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	2025年4月に新設された事業所であり、建物が新しく清潔である。部屋や廊下等は定員に比して余裕のある広さである。個別・小グループ・集団の人数と用途の合わせて機能的に部屋を配置した。運動支援をはじめ大きな集団活動が可能な部屋もあり、子どもたちの活動に合わせて柔軟に運用できている。親子支援の場所としても各部屋を柔軟に使用している。	運動支援については本センターの支援の基幹となる療育と位置付けており、大きな遊戯室を利用したサーキット運動等子どもの発達段階や発達特性に応じた支援内用を展開している。親子支援の場所として、一緒に活動したり、子どもの活動がみえる環境(PC・動画・参加観察等)を工夫し療育の見える化を図っている。	設備は充実しているが、整理整頓や保護者やお子さんの同線などはまだ改善の余地があると考えている。日々の支援終了後は、清掃を行うことや整理整頓を心がけ、常に新しい清潔な空間が保てられるようにしていきます。
2	子ども達がセンターを楽しみに通所している回答が多くあった。	センターポリシーとして、お子さんの「できた」を大切にしております。お子さんにとって「できた」と思える経験をたくさん積むことや、お子さんに寄り添った支援を提供できるよう、集団や個別の支援員が支援内容の向上に努めている。「集団」と「個別」あるいは「小集団」「個別」などの組み合わせをお子さんに合わせて利用が可能となり、保護者にとっても様々な支援の形態を組み合わせること、安心できる支援を提供している。	お子さんにとって「できた」や「楽しい」と思えるプログラム提供ができるよう、4つの支援カテゴリーを充実させていきます。保護者の方にも、支援内容がわかりやすいように、説明や記録などを丁寧に行っていきます。
3	個別支援計画の作成の際には、子どもや保護者の意思や意向を尊重し、アセスメントを基に「児童発達支援計画」「個別支援計画」を作成している。契約時の書類や支援計画書の説明などは、丁寧に説明されているという評価が多かった。□	保護者の方への説明は、状況に合わせて丁寧に説明を心がけています。ヒヤリングなどもアンケート実施など行い、細かく聞き取りをしております。ICTも利用して、全体発信や個別でのメッセージなど様々なツールを使用しています。	よりわかりやすくお子さんにあった計画が作成できるよう、一定期間をモニタリングを行ったり、お子さんに関わる職員と策定会議を実施していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	
1	適切な人員配置は行っておりますが、急な職員の体調不良などに対して余裕のある支援が提供できない時があった。保護者の期待する専門職の採用ができていない。	保育士や専門性の高い資格者の採用については、全体的に人材不足や一定の資質・能力確保が必要なため、採用に至らないことが多い。	引き続き採用活動に力を入れていきます。センターの働き方ややりがいなどを発信し、開かれたセンター運営に取り組んでいきます。
2	全体的によりよく評価していただいているが、保護者の評価の中で、「いいえ」あるいは「わからない」と回答が複数あった項目は、保護者と支援員の話し時間が少ないことや日々の支援内容についての説明が少ない回答があった。	お迎え時には、多くの保護者が来所し、しっかり時間をとお話する設定はありません。そのために、個別で相談できる支援があるが、案内が十分にできていない。	日々の支援やお子様の様子がわかるようなサービス提供記録の書き方や内容の検討などを行っていきます。また、相談したいと思った時に、相談しやすい環境を整えていきます。
3	センター機能を併せ持つ児童発達支援センターとして、地域や他の児童発達支援センターとの連携・啓発や研修に関わる活動がまだ多くはできていない。	初年度のセンター運営に注力したため、外部との連携等は、時間が足りず難しかった。	2年目になり、運営を安定させ、センター機能としての外部との連携や研修等を行っていきます。